

コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況

品 目 名		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		(参考) 主な輸出先国
							1～5月	対前年比	
コメ・コメ加工品	数量 (原料米換算)	28,685トン	32,226トン	35,531トン	36,569トン	45,959トン	20,154トン	+14%	香港 アメリカ 中国 台湾 シンガポール
		264億円	309億円	329億円	347億円	524億円	233億円	+23%	
	数量	11,841トン	13,794トン	17,381トン	19,781トン	22,833トン	10,122トン	+16%	香港 シンガポール アメリカ 台湾 オーストラリア
		32億円	38億円	46億円	53億円	59億円	26億円	+13%	
	数量	3,849トン	4,053トン	4,033トン	4,222トン	5,141トン	1,658トン	-20%	アメリカ 台湾 香港 サウジアラビア シンガポール
		原料米換算	3,272トン	3,445トン	3,428トン	3,589トン	1,409トン	-20%	
		金額	42億円	44億円	43億円	45億円	19億円	-12%	
	数量	23,482 ㌔リットル	25,747 ㌔リットル	24,928 ㌔リットル	21,761 ㌔リットル	32,052 ㌔リットル	14,626 ㌔リットル	+19%	アメリカ 中国 香港 シンガポール 韓国
		原料米換算	13,226トン	14,502トン	14,041トン	12,257トン	8,238トン	+19%	
		金額	187億円	222億円	234億円	241億円	402億円	+30%	
	数量	658トン	923トン	1,018トン	1,205トン	1,129トン	495トン	+7%	香港 アメリカ 台湾 ベトナム 中国
		原料米換算	346トン	485トン	535トン	634トン	594トン	+7%	
		金額	3億円	5億円	5億円	7億円	6億円	+11%	
	数量			118トン	249トン	88トン	101トン	+174%	アメリカ ドイツ タイ 台湾 イタリア
		原料米換算		146トン	308トン	108トン	125トン	+174%	
		金額		0.3億円	0.7億円	0.6億円	0.5億円	+98%	
	数量 (原料米換算)	12,187トン	14,279トン	18,062トン	20,723トン	23,535トン	10,507トン	+17%	香港 シンガポール アメリカ 台湾 オーストラリア
		35億円	42億円	52億円	60億円	66億円	29億円	+14%	

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）
注1：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。パックご飯等は2017年より、米粉は2019年より、米粉麺等は2020年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。
注2：米粉及び米粉製品のうち米粉製品の原料米換算は米粉100%として推計。

商業用のコメの輸出数量及び輸出金額の推移

- 2021年のコメの輸出数量は対前年比15%増の22,833トン、輸出金額は対前年比12%増の5,933百万円。

	2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年 (1～5月)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	11,841 (+19%)	3,198 (+18%)	13,794 (+16%)	3,756 (+17%)	17,381 (+26%)	4,620 (+23%)	19,781 (+14%)	5,315 (+15%)	22,833 (+15%)	5,933 (+12%)	10,122 (+16%)	2,559 (+13%)
香港	4,128	1,016	4,690	1,160	5,436	1,372	6,978	1,796	8,938	2,118	3,622 (+1%)	850 (-2%)
シンガポール	2,861	642	3,161	694	3,879	802	3,696	785	4,972	1,025	2,140 (+8%)	422 (+5%)
アメリカ	986	320	1,282	404	1,980	543	1,989	565	2,244	625	1,172 (+45%)	331 (+46%)
台湾	943	350	1,173	394	1,262	411	2,004	622	1,907	575	795 (+13%)	228 (+12%)
オーストラリア	476	145	635	197	770	233	1,074	334	893	283	388 (+29%)	122 (+31%)
中国	298	97	524	211	1,007	363	1,002	321	575	219	329 (+95%)	96 (+37%)
タイ	192	51	320	81	578	145	555	145	625	162	399 (+71%)	97 (+60%)
イギリス	695	191	422	121	450	131	451	131	332	104	212 (+83%)	64 (+81%)
ロシア	78	31	120	43	174	64	199	72	227	79	72 (-20%)	29 (-7%)
フランス	61	27	78	32	93	40	112	49	173	72	77 (+108%)	33 (+68%)
インドネシア	72	26	1	2	90	25	4	3	247	72	— (-100%)	— (-100%)
カナダ	92	28	138	43	158	51	205	62	210	69	128 (+32%)	38 (+11%)
その他	959	276	1,250	374	1,504	440	1,512	431	1,490	531	788	247

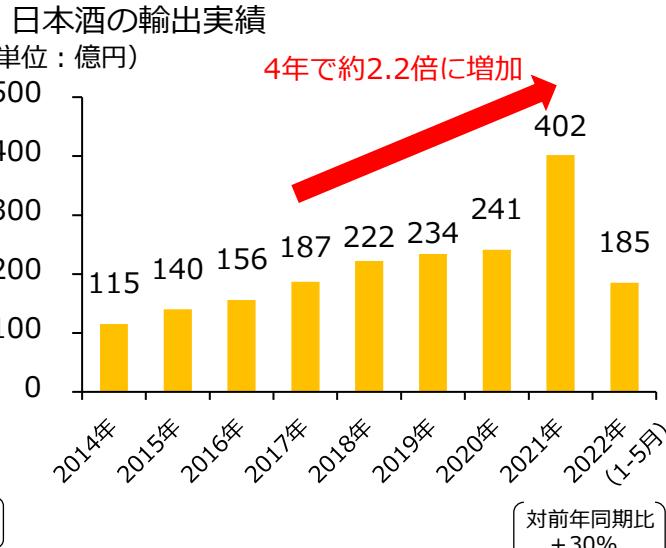
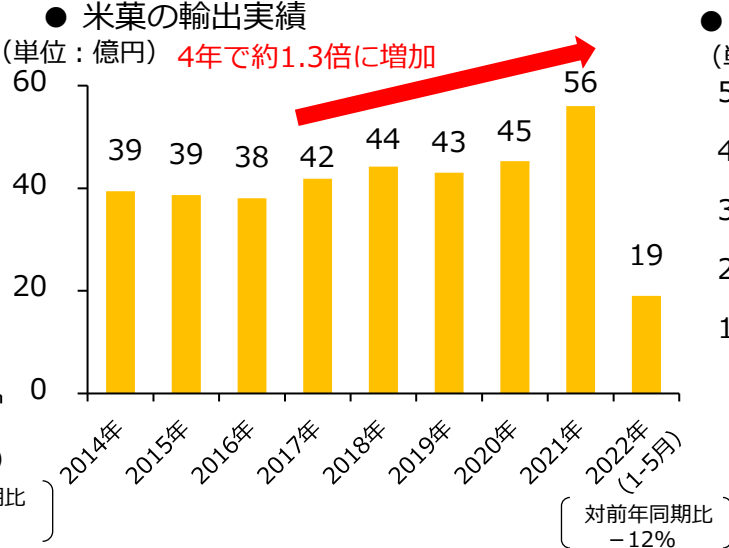
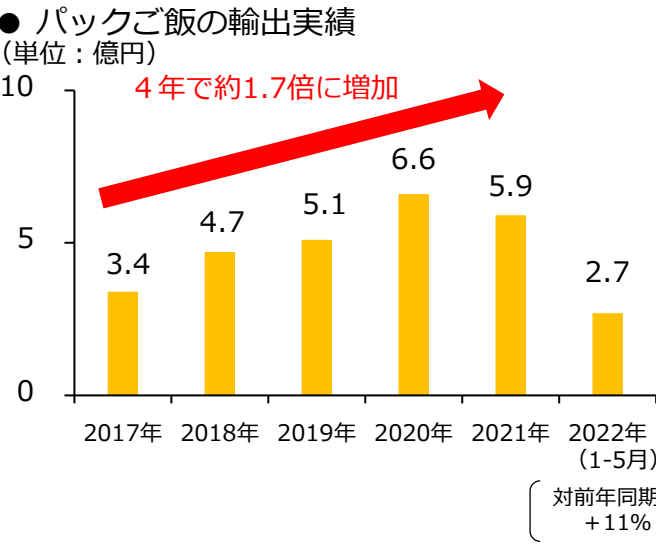
資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

注1：（ ）内は対前年同期増減率である。

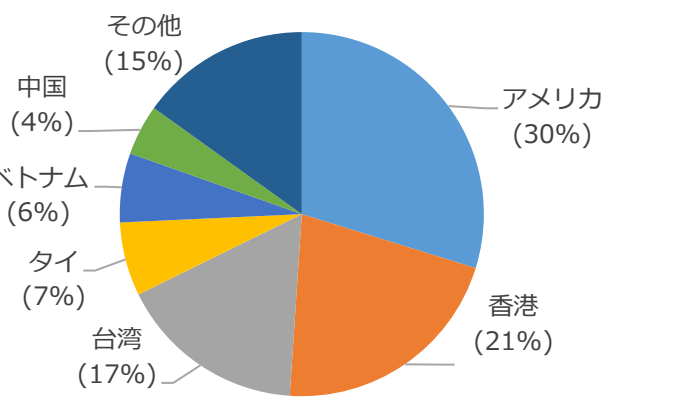
注2：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

パックご飯・米菓・日本酒の輸出実績の推移

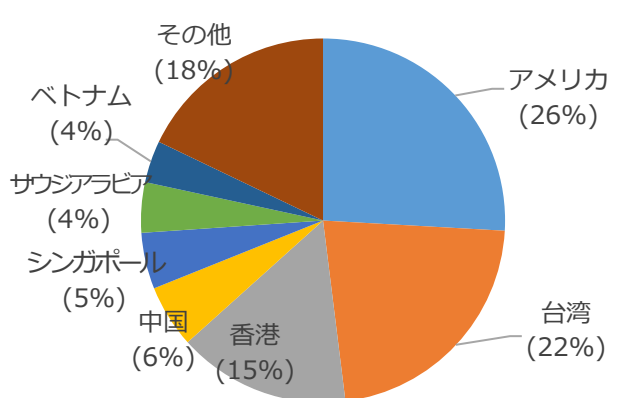
- パックご飯の輸出については、韓国向けが増加した一方、香港・中国向け等で減少し、2021年の輸出金額・輸出量はともに減少。
- 米菓の輸出については、アメリカ・台湾向け等が増加したこと等から、2021年の輸出金額・輸出量はともに増加。
- 日本酒の輸出については、中国・アメリカ向け等が大きく増加したこと等から、2021年の輸出金額も大きく増加。



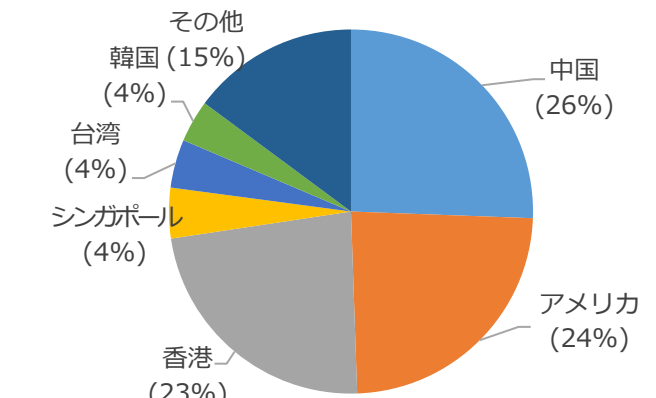
■ パックご飯の輸出先国内訳 (金額ベース) (2021年)



■ 米菓の輸出先国内訳 (金額ベース) (2021年)



■ 日本酒の輸出先国内訳 (金額ベース) (2021年)



※資料：財務省「貿易統計」
(注) パックご飯等は2017年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。



1. 国別輸出額目標

国名	2019年実績	2025年目標	国別のニーズ・規制に対応するための課題・方策
合計	52億円	125億円	
香港	15億円	36億円	・大手米卸や輸出事業者が中食・外食を中心に需要を開拓しており、今後もレストランチェーンやおにぎり店等をメインターゲットとした需要開拓を図る
アメリカ	7億円	30億円	・大手米卸や輸出事業者が日系小売店需要を開拓。今後は日本食レストラン等やEC等の小売需要を開拓。またパックご飯や米粉の最大の輸出先国であり、更なる市場開拓を図る
中国	4億円	19億円	・大手米卸等がECやギフトボックス等の贈答用を中心に需要を伸ばしており、更なる開拓を図る ・コスト縮減のためには指定精米工場等の活用に加えて工場等の追加や輸入規制の緩和が不可欠
シンガポール	8億円	16億円	・輸出事業者やJA系統等が中食・外食を中心に需要を開拓。更にレストランチェーンやおにぎり店等をメインターゲットとした需要開拓を図る
その他	18億円	22億円	・UAEや欧州等のコメを主食としない地域では、寿司等の日本食需要拡大に合わせて日本産米の需要開拓を図る ・EUを中心に拡大するグルテンフリー需要の取り込みを通じた米粉・米粉製品の需要開拓を図る

2. 輸出産地の育成・展開

<輸出産地数>

- ・30～40産地（先進的なJA等をモデル産地として、千トン超の輸出用米の生産に取り組む産地を育成する）

<今後育成すべき国内産地>

- ・国際競争力を有するコメの生産と農家手取り収入の確保の両立を図ることで、大ロットで輸出用米を生産・供給する産地

<生産基盤の強化やロットの拡大、産地間連携の実現に向けた方策>

- ・輸出事業者と産地が連携して取り組む、多収米の導入や作期分散等の生産・流通コスト低減の取組の支援により、輸出用米の生産拡大（主食用米からの作付転換）を推進

3. 加工・流通施設の整備

- ・パックご飯メーカーや米粉・米粉製品メーカーが輸出に取り組んでいるが、輸出先国の規制等への対応が必要になるケースがあることから、当該規制等対応のための取組や輸出向け生産に必要な機械・設備の導入等を支援

4. 品目別団体を中心とした販路開拓

- ・現在、（一社）全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸）が品目別のプロモーションを実施。プロモーションの財源には、国庫補助金のほか会費収入も一部活用。
- ・今後全米輸は、新興市場（輸出事業者の進出が不十分な国・地域あるいは分野。UAE・北欧や、アメリカのEC市場等を想定）でのプロモーション等を通じた市場開拓を予定。実施に際してはJETRO・JFOODOとも連携

全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸）の概要

- コメ・コメ関連食品の海外需要の開拓・拡大のため、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸））を平成26年11月27日に立ち上げ。
- 全米輸には米卸・輸出事業者のほか、産地側である全農・ホクレン等も会員として参加。これまで、海外見本市への出展、PRイベントの開催や輸出先国の規制・マーケット情報の収集・発信、広報素材の作成等に取り組んできたところ。
- 今後、輸出拡大実行戦略を踏まえたコメ・コメ加工品の品目団体として、会員向けサービスの強化・会員数の増加・新興市場でのプロモーション等を通じた海外市場の開拓・自主財源の増加等を図っていく必要。

団体名	一般社団法人全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（略称：全米輸）		
設立日	平成26年11月27日		
目 的	コメ・コメ関連食品の海外需要の開拓・拡大のため、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する。		
会員数 2022年7月4日現在（賛助会員含む）	60	米卸・輸出事業者：（クボタ、全農インターナショナル、神明、木徳神糧、名古屋食糧、千田みずほ、東洋ライス等） 全国団体等：2（全米販、全米菓） 生産者団体：7（全農、ホクレン、JAごしょつがる等） 蔵元等：15 米菓メーカー：4 その他：9（米粉メーカー、パックご飯メーカー等）	
理 事	理事長	木村 良	（木徳神糧(株)取締役相談役、全米販理事長）
	専務理事	細田 浩之	（元三井物産(株)）
	理事	陰山 貞三	（千田みずほ(株)執行役員 事業開発本部海外事業部長）
		山田 智基	（木徳神糧(株) 取締役執行役員 営業本部海外事業事業統括）
		松永 将義	（白鶴酒造(株) 執行役員 海外事業部長）
		舩木 秀邦	（(株)神明 執行役員 海外事業本部 本部長）
		高木 克己	（全国農業協同組合連合会 輸出対策部長）

品目団体による輸出促進のための取組について

○ 2021年5月28日に取りまとめられた「輸出拡大実行戦略フォローアップ」では、**主要な品目ごとに、生産から販売に至る事業者を構成員とする「品目団体」**が、

- ① **生産・流通・販売における統一規格やナショナルブランドの基準を定める**
 - ② **海外市場調査や販路開拓に取り組む**
 - ③ **自主財源の増加に取り組む**
- ことが求められている。

○ コメ・コメ加工品の輸出においては全米輸（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）がオールジャパンでの需要開拓等を担ってきたところ、**今後機能強化・会員数の増加・自己収入の拡大等を図っていく必要。**

輸出拡大実行戦略及びフォローアップにて示された課題

- 重点品目毎に品目団体を組織化。当該品目団体等が主体となって、輸出先の情報収集・販売戦略作りなどに取り組む。
- 品目団体等の財源の確保等について検討。

- 品目団体は生産・流通・販売における統一規格やナショナルブランドの基準等を定めた業務規程を作成。

全米輸における取組強化の方向性

- 全米輸には、これまでも米卸・輸出事業者のほか、産地である全農・ホクレン等が会員として参加。プロモーション事業の開催や輸出先国・地域別の情報発信等を実施。
- 今後は、
 - ① **会費水準を見直し（引き下げ）、会員数の増加に努めるとともに、事業参加負担金の導入により自主財源の強化**
 - ・ 正会員の年会費を30→15万円に引き下げ
 - ・ 1事業参加毎に事業費の2%（上限20万円）を参加負担金として徴収
 - ・ 事業に参加しない産地向けに賛助会員制度（年会費3万円）を導入
 - ② **会員サービスの強化（専門家の活用による相談対応、情報発信等）**
 - ③ **新興市場でのプロモーション等を通じた市場開拓を図る。**



- 全米輸において日本産コメ・コメ加工品の輸出促進のための**統一ロゴマークを作成**、プロモーション等において活用。
- 今後は、効率的な輸出に向けた**規格・基準の制定に向けて**、
 - ・ **日本産米の品質面の優位性に関する調査・分析**
 - ・ 物流面・規格等についての会員間での意見交換等を実施予定。
(スマート・オコメ・チェーン・JAS規格についても積極的に関与)



コメ海外市場拡大戦略プロジェクトについて

国・品目団体等による支援

《国による支援》

- ・（新たに）輸出に取り組む事業者・産地に対するマッチング・相談等サポート
- ・ 輸入規制についての情報発信

《品目団体等による支援》

- ・ 海外マーケット動向についての情報発信
- ・ 専門家による相談対応等

支援

輸出事業計画作成事業者

輸出産地

特に、千トン超の輸出用米生産に取り組む産地は「輸出産地」としてリスト化し、重点的に支援。

今後は、

- ・ 輸出事業計画を策定し、課題と取組内容を明確化して輸出拡大を図る
- ・ 品目団体と連携して海外需要開拓に取り組む

事業者に対して支援を重点化。

（事業計画策定者は、輸出促進法に基づく融資等の支援を活用可能。）

戦略的輸出基地（産地）

海外マーケットに対応可能な、質、数量、価格の面で競争力を有するコメの生産を推進。



戦略的輸出事業者（卸、輸出商社、メーカー等）

輸出拡大の目標、当該目標達成のためのターゲット国・地域・市場及び取組方針を掲げ戦略的に海外市場を開拓。



産地と輸出事業者が一体となったマーケットイン型の海外需要開拓



輸出目標の達成に向けたコメ・コメ加工品輸出の飛躍的増加

コメ海外市場拡大戦略プロジェクト